

令和五年度花卷市民芸術祭

# 第十七回文芸大会作品集

児童・生徒の部

花卷市民芸術祭実行委員会

第18回花巻市民芸術祭第17回文芸大会入賞者 小・中学生の部

と き 令和5年11月18日  
ところ 花巻市生涯学園都市会館

<短歌>

小・中学生の部 奨励賞

—中学校—	西南中学校	2年	伊藤 真桜
	湯口中学校	2年	佐々木彩花
	湯口中学校	2年	高橋 芽姫
	大迫中学校	2年	鎌田 一愛
	花巻北中学校	2年	蔦谷 和子
	花巻北中学校	2年	吉田 千紘

<俳句>

小・中学生の部 奨励賞

—中学校—	花巻中学校	3年	川村 碧泉
	花巻中学校	3年	笹木 雄心
	湯口中学校	3年	小山田智咲
	西南中学校	2年	根子 愛梨
	湯本中学校	3年	高橋 快
	大迫中学校	3年	伊藤 陽翔

<川柳>

小・中学生の部

宿題 「 空 」 あべ 和香 選

—中学校—	特選	湯口中学校	3年	神山 咲綺
	秀逸	西南中学校	2年	伊藤 真桜
	佳作	西南中学校	2年	照井 蒼大
	佳作	西南中学校	2年	佐藤 奏芽
	佳作	西南中学校	2年	伊藤 真桜
	佳作	西南中学校	2年	藤原 彩花
	佳作	西南中学校	2年	藤原 朱里

宿題 「 歌 」 藤川 忠巳 選

—中学校—	特選	西南中学校	2年	照井 湊愛
	秀逸	西南中学校	2年	高橋 美桜
	佳作	西南中学校	2年	根子 愛梨
	佳作	西南中学校	2年	菊池 元慈
	佳作	西南中学校	2年	照井 蒼大
	佳作	西南中学校	2年	原 唯夏
	佳作	西南中学校	2年	伊藤 真桜
	佳作	湯口中学校	3年	松下 倖大

<詩>

小・中学生の部

—中学校—	奨励賞	「おはよりのプレゼント」		
		大迫中学校	1年	藤田 凜花
	奨励賞	「見えないだけで」		
		西南中学校	2年	澤田 佳音
	奨励賞	「自然の不思議な力」		
		大迫中学校	1年	遠山 莉央
	奨励賞	「かえる」	1年	高橋 莉愛
		石鳥谷中学校		

目次

一、短歌

中学生

奨励賞  
参加作品

P P  
2 1  
{ }

一、俳句

中学生

奨励賞・入選  
参加作品

P P  
14 10  
{ }

一、川柳

中学生

特選・秀逸・佳作  
参加作品

P P  
38 37  
{ }

一、詩

中学生

奨励賞  
参加作品

P P  
46 44  
{ }

令和五年度花巻市民芸術祭第十七回文芸大会

「短歌」

中学生の部

千田 正平 選

石黒 和夫 選

奨励賞

青空に打ち寄せる波輝やいて時間を忘れ青に飛びこむ

西南中学校 二年 伊藤 真桜

雨あがりあじさいの上のしずくには青空青春光つてうつる

湯口中学校 二年 佐々木彩花

君からの「会いたい」だけでモノクロな僕の世界はすぐに色づく

湯口中学校 二年 高橋 芽姫

おぼれかけ息も絶えだえ死の予感冷たく苦い五歳の記憶

大迫中学校 二年 鎌田 一愛

はあ またか 長女の役目「怒られる」妹たちよ もうやめてくれ……

花巻北中学校 二年 蔦谷 和子

奥歯ゆれ歯ぐきふんばり赤にじむ冷たい水がしみるこの夏

花巻北中学校 二年 吉田 千紘

参加作品 中学生の部

夏の夜月と星たちきらきらと私ここだと言わんばかりに  
 暗い空ヒグラシの声鳴り響き夏の終わりを寂しく思う  
 群青の空見上げてはのんびりと飛ぶ鳥を見て「飛んでみたいな」  
 晴れの日洗濯物を干したのに急な雨でびしょぬれに  
 半分に切られた竹を流れてくはしでつかまえるんと光る  
 夏休み花火大会行けなくてテレビの中継ずっと見続けた  
 梅雨の時期ザーザーと降る雨の音子守歌にしねむりについた  
 遠征で声をはってがんばった声量完璧応援歌  
 大会で残り一点取り返し逆転狙うラストマツチ  
 緊張と希望を持つて歩み出そう自分だけの物語を  
 青い海底見てみると貝殻やいろんな生き物きれいだな  
 頑張るぞ感謝のプレー目標はバレー部初の県進出だ  
 川に行き友達たちとやすでつきたくさんとつて自分で調理  
 春がすぎ暑い夏がやってきた海とプール楽しい夏だ  
 夏休み家に帰って蒸し暑いエアコンをつけ体を冷やす  
 クリスマスサンタに会いたい！言う子供焦る親の心も知らずに  
 夏がもう終わってしまう音がするずっとそばにいたいと思つた  
 青い空海はきらきら夏景色みんなの笑顔もきらきら光る  
 夏祭り夜空に花火咲きほこる夏のおわりを見とどける夜  
 夕方のコウロギたちの合唱会すべての虫がきれいな声だ  
 夏の夜辺りが暗く涼しい時手持ち花火で盛り上がる

西南中学校	二年	根子	愛梨
西南中学校	二年	高橋	心南
西南中学校	二年	小原	暁
西南中学校	二年	澤田	佳音
西南中学校	二年	阿部	愛佳
西南中学校	二年	高橋	大翔
西南中学校	二年	堀岡	咲紀
西南中学校	二年	照井	道頌
西南中学校	二年	小原	蓮夢
西南中学校	二年	藤原	颯
西南中学校	二年	藤原	彩花
西南中学校	二年	佐々木	彩衣
西南中学校	二年	八重樫	風雅
西南中学校	二年	照井	依吹
西南中学校	二年	佐藤	妃奈
西南中学校	二年	菊池	愛依
西南中学校	二年	浅沼	天
西南中学校	二年	八重樫	愛弓
西南中学校	二年	安藤	梨来
西南中学校	二年	菊池	元慈
西南中学校	二年	照井	日菜

夏休み花火大会友達と屋台まわったり花火見たり  
 夏休み暑さに勝てず友達と一緒に入った川最高  
 暑い夏体育館でバスケットをし汗ながしながら日々練習  
 音響けみんなに声を届けたい華やかな声合唱で  
 セミが鳴き授業中に外を見て注意されたらまた外を見る  
 青空を見ると気分があがりゆく今日も一日がんばれそうだ  
 見上げると雲一つない青い空に飛行機雲で絵を描かれる  
 夕方の帰り道に鳴くセミの声夏になつたと感じる毎日  
 新刊の発売情報聞きつけて家をとびだし売り場へいそぐ  
 学校の終わりの帰りの道でのことオレンジ赤色美しい空  
 休み明け問題用紙とニラメッコ時計眺めてゲームオーバー  
 県大会力を出せず悔し泣き何より高き初戦の難易度  
 夏休みなにも考えず遊んだら最終日には宿題の山  
 夏休み明けた初日にテストの日「いやだ」と叫ぶ自分がいたり  
 休み明ける友との話題考えて弾む言葉の一つ一つよ  
 僕の出す楽器の音色はいつの日か頑張るキミへのエールとなる  
 私には君だけなのに気づいてよあなたはいつでもあの子に夢中  
 なつの庭ラの音階が鳴り響く刺された場所がももいろに染まる  
 カマキリがバッタを食べて鳥に食べられる狩られて命回りとつづける  
 「丸亀」で冷しぶつかけかしわ天食べて自転車をこいで帰る  
 どこまでも広がる色は空の色ずっと続いてアオハルのいろ  
 画面から出てこないのに何故なのか胸が苦しく好きになつてる

西南中学校	二年	高橋	颯良
西南中学校	二年	泉澤	琉生
西南中学校	二年	佐藤	奏芽
西南中学校	二年	高橋	美桜
西南中学校	二年	斎藤	奏
西南中学校	二年	照井	湊愛
西南中学校	二年	大和	走礼
西南中学校	二年	藤原	朱理
西南中学校	二年	原	唯夏
西南中学校	二年	小原	颯途
湯口中学校	二年	石塚	裕人
湯口中学校	二年	神山	豪
湯口中学校	二年	神山	隼琉
湯口中学校	二年	久保田	潤
湯口中学校	二年	坂本	華斗
湯口中学校	二年	佐々木	瞬平
湯口中学校	二年	佐々木	実泉
湯口中学校	二年	佐藤	毬乃
湯口中学校	二年	田井	煌樹
湯口中学校	二年	高橋	快青
湯口中学校	二年	高橋	優衣
湯口中学校	二年	高橋	麗波

声援が聞こえる試合久しぶりこみあげてくる緊張がまた  
 夏休み終わってすぐにテストあるやつば学校つまらないかな  
 一週間長くて短いそんな日々でも人生に二度とない今日  
 カタオモイ日に日に「好き」が増していくあなたの笑顔めつちやスキかも  
 おばあちゃんダラダラしてる夏休みクーラーきいてる涼しい部屋で  
 夏ノ夜あみ戸にひつつくアマガエル白いおながが大福みたい  
 ひと夏の目が輝いて追ってしまふ自分の気持ち動かないまま  
 星の夜月がキラキラ語ってる「いつもあなたのそばにいるよ」と  
 卓球の新人戦でみんなから応援されて緊張が増す  
 新人戦粘りに粘って大勝利匠ともと共に県大出場  
 先輩と遊んで騒ぐ部活動休みと練習いずれも大事  
 ゲコゲコと田植えのときにあらわれるカエルの王様ヒキガエル  
 俺の部屋あさる母親目撃しなんにもないけど不安に思う  
 山の日に秋田の海へレッツゴー波にもまれてマイペースデー  
 かに探し石を持ち上げ川遊びいこと遊んだ暑い夏の日  
 体育祭汗水たらしいぞ勝負共に戦う仲間との初夏  
 バドミントン汗水流しラケットふる気合い入れていざ練習  
 部活終え自転車まかせ坂道を遠くはなれた太陽めがけ  
 暑い夏部活終わりの青い空長き坂道風に抗う  
 友と行く犬の散歩のその途中飛んだり跳ねたりうさぎのよう  
 階段で勢いつきすぎグルグルと止まらなくなり転げ落ちる  
 夕食後座敷に行つて仮眠とるねこと一緒に夢でくつろぎ

湯口中学校	二年	千田	実来
湯口中学校	二年	照井	天晴
湯口中学校	二年	照井ひなた	
湯口中学校	二年	島山	怜奈
湯口中学校	二年	平賀	成龍
湯口中学校	二年	福田	律稀
湯口中学校	二年	平賀	もも
湯口中学校	二年	藤井	璃音
湯口中学校	二年	八重樫	湊
大迫中学校	二年	阿部	太一
大迫中学校	二年	伊藤	丞
大迫中学校	二年	伊藤	聡汰
大迫中学校	二年	桐田	航輝
大迫中学校	二年	小森林	仁菜
大迫中学校	二年	佐々木	瞭太
大迫中学校	二年	佐藤	逢夢
大迫中学校	二年	佐藤	花舞
大迫中学校	二年	佐藤	爽
大迫中学校	二年	高橋	匠
大迫中学校	二年	高橋	美花
大迫中学校	二年	山田	香穂
大迫中学校	二年	吉田	優良



若き日を共に歩んで分かり合い友から親友心の絆  
 夏やすみ課題になやみひとくろう心落ちつく風鈴の音  
 ドタバタと聞こえるぞ誰か走っているゴールに向かつて走ってる  
 夏の今日外は暑くて中は爽外は青春中は勉強  
 どこ行つた昼間聞こえた子らの声夕暮れ空に響いた蝉の音  
 セミの声聞こえてるのに隠れてるどこにいるんだ夏のかくれんぼ  
 見渡せば木の葉たわむれカサカサと風に乗りに飛んでいく  
 風を切り晴天見上げペダルこぐ春は終わるが夏が始まる  
 しとしとと空の泣く声梅雨入りの休日の昼ねむる私  
 森の中セミの鳴き声ミンミンと夏の終わりにには静まりかえる  
 根性でつらい練習のりこえてみんな勝とう北中野球  
 晴天に走り回つたグラウンド汗水ながれた練習試合  
 キリキリと夜に聞こえる虫の音満月に響いて心も晴れる  
 夏の夜蛙の声がゲゴゲと響き渡る中自転車漕ぐ  
 夏の夜うだる暑さのため息を吐くすずしい秋を思いうかべて  
 ザザザと地に打ちつける雨の粒天気は晴れず気持ちも晴れず  
 第一区輝く汗が落ちていく父親の声大きく響く  
 夏休みベッドにいとコンコンとノックの音が聞こえてくるよ  
 夏祭り母と食べたかき氷部活終わりのご褒美タイム  
 夏の虫セミがミンミン鳴く季節ながめていとそよ風ふわり  
 手にアイス「一口だけ」と言う君に「しょうがないな」と炎天下の中  
 音色響くピアノコンクール桜散るこの悔しさが次への一歩

花卷北中学校	二年	若柳	由佳
花卷北中学校	二年	佐藤	凜人
花卷北中学校	二年	小原	汰牙
花卷北中学校	二年	雫石陽花	莉
花卷北中学校	二年	小田島美結	
花卷北中学校	二年	渡邊	衡
花卷北中学校	二年	高橋	匡佑
花卷北中学校	二年	太田代	航
花卷北中学校	二年	藤井	陽菜
花卷北中学校	二年	小原	慧矢
花卷北中学校	二年	加藤	颯弥
花卷北中学校	二年	佐藤	春真
花卷北中学校	二年	田井	蕾雅
花卷北中学校	二年	田中	伊織
花卷北中学校	二年	金子	玄叡
花卷北中学校	二年	菊池	優斗
花卷北中学校	二年	菊池	蒼海
花卷北中学校	二年	平賀	大誠
花卷北中学校	二年	高橋	野虹
花卷北中学校	二年	高橋	葵
花卷北中学校	二年	中島	寧々
花卷北中学校	二年	斉藤	百花

入道雲手に汗にぎり鳴り響くカキンと音が歓声の波  
 目標の場所に打てたスパイクに「ナイス！」と仲間達の声  
 せみの声みんみんみんと校舎前雪降る季節まちどおしい  
 見上げると空には噂の入道雲走り出したね夏本番へ  
 母の声夏の暑さに溶けてゆく時間が経てば夕焼け空  
 自転車で家のクローラー目に浮かべ太陽が照る夏が来た  
 ゴミ捨てて海は発つした「捨てるな」とでも届かない海の声  
 白球舞う酷暑のこの日汗流し仲間と共に高みを目指す  
 県大会後一步で次の場へアウトになつてとても悔しい  
 熱帯夜夜でも暑くて眠れずに起きてみれば水ない悲しみ  
 昼と夜世界が変わるその時間まるで料理をしているみたい  
 「がんばって」聞こえてきたのは風の音前と変わらぬ優しい声で  
 炎天下鼓動たかまる試合中応援まとい勝ち取る笑顔  
 夏の日風鈴かけて時澄す涼しい音色気持ちよい日々  
 雨の音闇夜の中で鳴り続け僕らの心も闇夜に包まれ  
 暗闇でどこからともなく聞こえてくる二・三匹だけのかすかな演奏  
 久々に人々にぎわう夏祭り友達集合止まらぬ会話  
 接戦でキュツと響く靴の音仲間と決める勝利の一本  
 また一步また一步道を進みゆくその先に見えた未来の自分  
 夏休み父と一緒に釣りに行き魚は釣れるがねがかりばかり  
 風ふいてもくもくとやるバスケットその真面目さをすてずに頑張る  
 ユニフォーム土でよごれて汗流し県大会のリベンジ誓う

花巻北中学校	二年	安孫子花凜
花巻北中学校	二年	大久保陽菜
花巻北中学校	二年	鎌田 結風
花巻北中学校	二年	櫛田 若葉
花巻北中学校	二年	照井 希愛
花巻北中学校	二年	高橋 颯志
花巻北中学校	二年	松浦 拓海
花巻北中学校	二年	照井 悠月
花巻北中学校	二年	田畑 礼惟
花巻北中学校	二年	佐々木哉音
花巻北中学校	二年	伊藤優姫菜
花巻北中学校	二年	藤井莉乃愛
花巻北中学校	二年	小田島百那
花巻北中学校	二年	樋口 莉穂
花巻北中学校	二年	中田 葵唯
花巻北中学校	二年	森 大河
花巻北中学校	二年	佐藤 凜乃
花巻北中学校	二年	鎌田 栞暢
花巻北中学校	二年	菊地 俊介
花巻北中学校	二年	伊藤 雛希
花巻北中学校	二年	大橋 天音
花巻北中学校	二年	伊藤信太郎

暑い中汗が流れる部活動この青春を歩んでいる僕

一週間美しく響く恋の声未来に繋いで輝く抜け殻

月の下冷えた空気と先輩といつしよにまわる夏の宵宮

暑い空ミンミンと鳴く木の上でみじかい人生ひつしに鳴いた

僕は何故君なんだろうかいつまでもなぜだろう君をあきらめきれない

汗にじみ歓声あびぬ背番号歪む風景青の季節

県大会となりのレーンは前の覇者他は気にせず自分と戦う

猛練習愚痴言いながらも続けてた思い出なんかにさせてたまるか

試合前緊張している私たちコート入ればもう別人

夏休み暑い中での部活動市陸のために全力で挑む

中総体緊張走る体育館多くのチームが涙で帰る

ぱかぱかと口開け金魚に見られてる考えてきづく今日父いない

八月の部活チームの人数が少ないけど大会までの一年悔いのないよう楽しみたい

波のおと青い風景手をのばす空が近くに見えたあの日

ゆらゆらとあがる火の玉皆が見て赤と黄の花咲いてる夜空

しとしとと空から落ちる水の音上は灰色僕は紺色

夏の昼金の光を身にまとい闇夜は孤独あんやこれがひまわり

君はいうもうすぐ夏がくるんだよ残るはいまだうつくしき桜の花びら

あつい夏あつさにまける夏の夜いますぐ冬にならないかなあ

風鈴の音静かな町に鳴り響くまるで「聞いて」というように

梅雨明けずむし暑い日が続いてるすずしげに鳴る風鈴の音

考え中ザーつと音が急な雨暗がりの中光がさした

花巻北中学校 二年 菊池 琉稀

花巻北中学校 二年 菊池 高

花巻北中学校 二年 野田 遥空

花巻北中学校 二年 遠藤 蒼介

花巻北中学校 二年 伊藤 漣音

花巻北中学校 二年 千葉カムイ

花巻北中学校 二年 佐藤 帆華

花巻北中学校 二年 及川 零央

花巻北中学校 二年 右京 愛心

花巻北中学校 二年 長谷川心優

花巻北中学校 二年 木立 一宇

花巻北中学校 二年 高橋 有生

花巻北中学校 二年 高橋 竣弥

花巻北中学校 二年 細川 紗那

花巻北中学校 二年 佐久間蒼天

花巻北中学校 二年 太田代 健

花巻北中学校 二年 畠山 瑞菜

花巻北中学校 二年 菊池 蒼天

花巻北中学校 二年 三品 芽玖

花巻北中学校 二年 高橋 利奈

花巻北中学校 二年 白藤 大瑤

花巻北中学校 二年 佐々木健成

夏の夜虫の鳴き声ききながら空を見上げて星は何色  
 夏の野原緑広がり癒やされる心の中も緑広がる  
 梅雨明けの蛙の鳴き声夜の主役町中へと響きわたる  
 ふんわりと夏の匂いに包まれて七色の橋見つけた私  
 真夏の日涼しさ感じる水の音次から次へぼたぼたおちる  
 食べすぎはダメと言われたアイス達もらうのがとてもうれしい  
 かえり道歩く坂道ミンミンと額に水滴水がしたたる  
 夏休みプールに入って楽しいよたくさん遊んでうれしさいっぱい  
 夏休み毎日聞こえるセミの声ミンミンミンミン話をしている  
 授業中ねぼけてかいたあのノート解説班も頭を抱え  
 自転車の真夏の坂に汗流しカゴのアイスをかじる夢みて  
 炎天下汗の一滴焼けついて夏の外はセミが鳴いている  
 線香と抹茶の煙重なって写真の曾祖父ずつと笑顔  
 耳すます夏を知らせるセミの声ふと見上げると雲の峰  
 満天の紅の空美しいそこに輝く大きな光  
 夏の夜音を飾るは宵火花となりの三日月光り輝く  
 梅雨の時期外で遊べず暇人にそんな時には自主勉強  
 海の青空にうつつされうかんでるそこで光るは夕映えの赤  
 今昇る一線の種が咲きほこる心に満ちた希望の光  
 朝起きて顔と歯洗いみじたくし学校いつてる夢を見ていた  
 最後まで走ってねばつてうばいとり自分たちで勝利をつかめ  
 陸上へ部活動へ自主練へ汗でぬれた服がどっしり

花巻北中学校	二年	藤原	結愛
花巻北中学校	二年	留場	創大
花巻北中学校	二年	江本莉里杏	
花巻北中学校	二年	長島	理奈
花巻北中学校	二年	古川	頼
花巻北中学校	二年	宅間	颯
花巻北中学校	二年	菊池	美祐
花巻北中学校	二年	稗貫	莉子
花巻北中学校	二年	平	晴輝
花巻北中学校	二年	櫻井	雄磨
花巻北中学校	二年	瀧津	慶太
花巻北中学校	二年	及川	快夢
花巻北中学校	二年	成瀬	湊
花巻北中学校	二年	佐藤	綺人
花巻北中学校	二年	藤原	結唯
花巻北中学校	二年	小原瑠唯奈	
花巻北中学校	二年	菊池	海翔
花巻北中学校	二年	菅野	心結
花巻北中学校	二年	佐藤ひなた	
花巻北中学校	二年	小野寺春和	
花巻北中学校	二年	八重樫羽太	
花巻北中学校	二年	三好	裕心

寝るまぎわガーガスースー田の近く自分は寝たいが虫は知らない  
夏の夜暑さ感じる部屋の大家族みんなでうちわであおぐ  
ほかほかのお米はいいなおいしいなやっぱいいなお米はうまい

花巻北中学校 二年 高橋 英汰  
花巻北中学校 二年 金子 黎  
花巻北中学校 二年 村木 真緒

令和五年度花巻市民芸術祭第十七回文芸大会

「俳句」

中学生の部

奨励賞

憂うつな雨があじさい光らせる

花巻中学校

三年

川村

碧泉

見上げれば空ひとりじめ天の川

湯口中学校

三年

小山田智咲

火花咲き空も心も満開に

西南中学校

二年

根子 愛梨

吹く風に秋を感じる観覧車

湯本中学校

三年

高橋 快

あじさいがキラキラひかる雫かな

大迫中学校

三年

伊藤 陽翔

入選

大畑 善昭 選

しやぼん玉まちの風景映し出し

湯口中学校

三年

芦澤 雫

田が茶色もうすぐすれば雪が降る

湯口中学校

三年

佐藤 永舵

函館の涼しき風が吹く山頂  
 函館の夜景の上に月一つ  
 夏休み時がだんだん加速する  
 よみがえれ甲子川の蛍たち  
 冷房のきかない夜は眠れない  
 一日が花火のように過ぎていく  
 せせらぎの音に混ざって蛍とぶ  
 金色に輝き笑うかかしたち

佐々木 みき子 選

花火咲き空も心も満開に  
 あじさいにねがう再会弾くシヨパン  
 見上げれば空ひとりじめ天の川  
 向日葵が空に向かつて背比べ  
 秋晴れに友の笑み映え観覧車  
 秋うらら港をのぞむ赤レンガ  
 夏の空一球一球大歓声  
 網戸から父の帰宅に吠える犬  
 海水浴帰りの車はこつくりこ  
 うつりゆく山の色彩神無月

湯本中学校	三年	瀬川 暁之介
湯本中学校	三年	瀬川 暁之介
花巻中学校	三年	村井 宏徳
花巻中学校	三年	東野 結衣
花巻中学校	三年	東野 結衣
花巻中学校	三年	笹木 雄心
花巻中学校	三年	永本 瑠空
花巻中学校	三年	藤井 香菜子
西南中学校	二年	根子 愛梨
西南中学校	三年	荒山 暖陽
湯口中学校	三年	小山 田智咲
湯口中学校	三年	畠山 柚李
湯本中学校	三年	千葉 久遠
湯本中学校	三年	富永 結愛
花巻中学校	三年	佐藤 南希
花巻中学校	三年	小原 咲希
花巻中学校	三年	阿部 詩音
花巻中学校	三年	小菅 琉徠

畠山 濁水 選

暑い日に兄の帰省でみな笑顔  
もみじの葉押し花にして手紙書く  
中総体マウンドで見たホームラン  
旅終わるいかと秋風お土産に  
残暑の日セミ一匹の心の声  
函館の夜景の上に月一つ  
ばら朽ちて割れた花瓶と朱のしづく  
憂うつな雨があじさい光らせる  
天の川架けてあげたい渡る橋  
稲刈り機風を感じた祖父のひざ

安部 克詠 選

半夏雨背景透かす破れ傘  
山笑う息ふきかえすまちの色  
吹く風に秋を感じる観覧車  
旅終わるいかと秋風お土産に  
真昼どき陽炎ゆがむ遊園地  
函館の夜景の上に月一つ  
シャリシャリと暑さも削るかき氷  
さんま不漁嘆き悲しむ父がいる

西南中学校 二年 本館 雄翔  
西南中学校 二年 高橋 美桜  
湯口中学校 三年 畠山 武瑠  
湯本中学校 三年 千葉 久遠  
湯本中学校 三年 川村 望夢  
湯本中学校 三年 瀬川 眺之介  
花巻中学校 三年 佐々木 楓奈  
花巻中学校 三年 川村 碧泉  
花巻中学校 三年 情野 尊心  
花巻中学校 三年 岡田 泰知

西南中学校 三年 澤田 琳心  
湯口中学校 三年 神山 咲綺  
湯本中学校 三年 高橋 快  
湯本中学校 三年 千葉 久遠  
湯本中学校 三年 村田 大河  
湯本中学校 三年 瀬川 眺之介  
花巻中学校 三年 福岡 真太郎  
花巻中学校 三年 工藤 文香



浴衣着るカコンと鳴りゆく下駄の音  
どんぐりを隠した場所で待ち合わせ

武田 稲子 選

あじさいにねがう再会弾くシヨパン  
見上げれば空ひとりじめ天の川  
星たちが空でおしやべり夏の夜  
大空を親子で泳ぐこいのぼり  
最後までエース投げ抜く猛暑かな  
短命に思い切り泣く蝉の声  
てぬぐいにしたたる汗とせみの声  
流れ星「君に会いたい」ねがう僕  
ラムネ瓶日に照らされて透ける空  
どんぐりを隠した場所で待ち合わせ

高橋 和枝 選

もみじの葉押し花にして手紙書く  
天の川ひとつぶ涙顔つたう  
モノクロの夜空を染める花火かな  
早朝の涼しき風と走りけり

花巻中学校 三年 長谷川 楓  
花巻中学校 三年 照井 のん

西南中学校 三年 荒山 暖陽  
湯口中学校 三年 小山田智咲  
湯口中学校 三年 名須川七海  
湯口中学校 三年 高野橋愛柚  
花巻中学校 三年 佐藤 聖  
花巻中学校 三年 福岡真太郎  
花巻中学校 三年 照井 沙和  
花巻中学校 三年 豊澤 知輝  
花巻中学校 三年 村木 絢音  
花巻中学校 三年 照井 のん

西南中学校 二年 高橋 美桜  
西南中学校 三年 佐々木優衣  
湯口中学校 三年 三田もなみ  
湯本中学校 三年 曳地 佑斗

最後までエース投げ抜く猛暑かな  
 憂うつな雨があじさい光らせる  
 ひまわりが太陽探して咲いている  
 一日が花火のように過ぎていく  
 さんま不漁嘆き悲しむ父がいる  
 海水浴帰りの車はこつくりこ

参加作品 中学生の部

夏の夜ホラー動画見たくなる  
 秋風と供に舞い散る紅葉たち  
 窓の外あたり一面雪景色  
 極暑の中汗だくながら練習だ  
 風鈴の涼しさ感じる夏の音  
 せみの声風の音聞き夏感じる  
 かきの木に実が実り初めたべごろに  
 かき氷食べて爽快暑い夏  
 海の音浜辺に座る砂の上  
 春風がなびく今日も桜散る  
 夏休みみんなと行った映画館  
 夏草や気温とともに高くなる

花卷中学校	三年	佐藤 聖
花卷中学校	三年	川村 碧泉
花卷中学校	三年	森村 莉仁
花卷中学校	三年	笹木 雄心
花卷中学校	三年	工藤 文香
花卷中学校	三年	阿部 詩音

西南中学校	二年	菊池 愛依
西南中学校	二年	菊池 愛依
西南中学校	二年	菊池 愛依
西南中学校	二年	佐藤 妃奈
西南中学校	二年	大和 走礼
西南中学校	二年	佐藤 奏芽
西南中学校	二年	川邊 颯人
西南中学校	二年	藤原 朱理
西南中学校	二年	小原 蓮夢
西南中学校	二年	斎藤 奏
西南中学校	二年	照井 道頌
西南中学校	二年	藤原 颯

秋雨が降る時期の風冷たいな  
 日の入りが早くなるほどすぐ秋に  
 春の色青空の下桜舞う  
 夏の昼暑さにまけないせみの声  
 夏の海夕日が沈み秋感じ  
 夏下旬秋の発見みつけたよ  
 祖母母ね暑さけとぼす夏野菜  
 壮大な紅色の夕日だよ  
 また一歩心新たにクラス替え  
 夏の夜に満点の星美しい  
 夏の色青のイメージ私だけ？  
 夏になり部活中にせみの声  
 気温がね高くてプールも温かい  
 夏祭りその場のふいんき夢のよう  
 夏が来て毎日暑く涼む日々  
 暑い日々部屋にこもり涼む年  
 暑い夏風鈴の音で涼まれる  
 朝早く雪降り一面銀世界  
 夏しゅうばん線香花火のはかなさよ  
 雪だるま大小様々大集合  
 笑う顔陽に照らされてかがやくよ  
 川遊び魚をとって夏気分

西南中学校	二年	藤原	颯
西南中学校	二年	澤田	佳音
西南中学校	二年	阿部	愛佳
西南中学校	二年	安藤	梨来
西南中学校	二年	安藤	梨来
西南中学校	二年	安藤	梨来
西南中学校	二年	佐々木	彩衣
西南中学校	二年	佐々木	彩衣
西南中学校	二年	照井	日菜
西南中学校	二年	照井	日菜
西南中学校	二年	照井	日菜
西南中学校	二年	照井	日菜
西南中学校	二年	照井	日菜
西南中学校	二年	小原	颯途
西南中学校	二年	高橋	大翔
西南中学校	二年	藤原	彩花
西南中学校	二年	照井	依吹
西南中学校	二年	照井	依吹
西南中学校	二年	高橋	颯良
西南中学校	二年	伊藤	真桜
西南中学校	二年	原	唯夏
西南中学校	二年	根子	愛梨
西南中学校	二年	根子	愛梨
西南中学校	二年	泉澤	琉生



お手伝い干せたあの日は五月晴れ  
 夕立に変わり続ける心かな  
 雨音と煽り付きまとう五―七―五  
 波の音耳をすませば思い出す  
 ひびきたる水田歌う帰り道  
 汗落ちる巡る思いに笛の音  
 月見してにぎわいの頃ふりかえる  
 夏に足すラスト試合の熱さかな  
 風薫るぼつんと立てば虫の声  
 山眠る癒える心身露天風呂  
 ゆらゆらとちようちんゆれる祭りかな  
 ウグイスの鳴き声響き感じけり  
 浜梨と染まる木の枝足の跡  
 汗拭い涙の染みる優勝旗  
 流れ星友と私の願い事  
 炎天下チーム一体汗光る  
 煙草吸う父に声かけ蛍狩り  
 信号機雪と一緒にかくれんぼ  
 光芒や薫香かおる夢の中  
 夏休み心も体ものびのびと  
 初夏の道風にゆれてる赤い花  
 帰り道走り疲れて梅雨空や

西南中学校	三年	八重樫ららか
西南中学校	三年	寺澤 亜蓮
西南中学校	三年	石ヶ森薫子
西南中学校	三年	八重樫寛太郎
西南中学校	三年	八重樫徹大
西南中学校	三年	照井 仁
西南中学校	三年	根子 大輝
西南中学校	三年	藤原 秋汰
西南中学校	三年	小原 楓雅
西南中学校	三年	小原 蓮稀
西南中学校	三年	八重樫羽菜
西南中学校	三年	阿部 心春
西南中学校	三年	小河原和奏
西南中学校	三年	小原 蒼生
西南中学校	三年	小原 智莉
西南中学校	三年	小原 瑠望
西南中学校	三年	鎌田 華帆
西南中学校	三年	川越 飛翔
西南中学校	三年	菊池 建心
西南中学校	三年	貴俵 大地
西南中学校	三年	五枚橋羽奏
西南中学校	三年	佐藤 絵鈴

梅雨明けのひとときわめだつ黄色色  
 五月雨北や風吹く初夏の時期  
 汗拭い日が落ちた時下校かな  
 暑き日に友と話した帰り道  
 試合負け無言で食べた冷えたそば  
 紅緑忌<sup>こうりよくき</sup>変容しけり桜の葉  
 夏の朝自転車こぐが向かい風  
 風薫り蚩かがやく夏の夜  
 雫垂れ見上げ詠嘆藤の花  
 暑い夏海に入つて涼しいな  
 風の音夏の風鈴みみ澄し  
 野遊びや遊具に乗つて楽しいな  
 東天に新年告げる初茜  
 並木道空中に舞う桜花弁  
 風花の舞いあがる青霽のそら  
 暖冬の陽光のぞき小春日かな  
 仰ぎ見て星芒連なりしすばるかな  
 暖かな日の光浴び菫咲く  
 雨の日の足もとにふと雨蛙  
 爽やかで秀麗な情景秋の朝  
 朝起きてカーテンあけたら初雪かな  
 青空に桜一面咲きほこる

西南中学校	三年	佐藤	琉斗
西南中学校	三年	高橋	一旭
西南中学校	三年	高橋	天花
西南中学校	三年	高橋	真恵
西南中学校	三年	原	悠翔
西南中学校	三年	平藤	隼斗
西南中学校	三年	本館	美陽
西南中学校	三年	八重樫	志温
大迫中学校	三年	伊藤	璃羽
大迫中学校	三年	伊勢	遥斗
大迫中学校	三年	伊藤	煌
大迫中学校	三年	遠山	昊
大迫中学校	三年	梅村	加奈
大迫中学校	三年	菊池	恵介
大迫中学校	三年	佐々木	和世
大迫中学校	三年	瀬川	珠生
大迫中学校	三年	瀬川	友梨佳
大迫中学校	三年	藤館	里咲
大迫中学校	三年	森山	遥陽
大迫中学校	三年	吉田	亮介
湯口中学校	三年	赤石	隆弥
湯口中学校	三年	斎藤	紗愛

旅立ちだぶかぶか制服恋しいな  
輝いた夜空の花火と一等星  
ザーザーケロ音色奏でる雨蛙  
梅雨明けて太陽光りまぶしいな  
そよそよとうたう春風花揺らす  
夜に咲く遠くで響く花火かな  
ふと見上げ夜空に流れる流星群  
やりきつた思いあふれる中総体  
青い空涙あふれる中総体  
おはようと蝉の合唱よい目覚め  
炎天下涙流した県大会  
梅雨明けの眩しい日差しに目を細め  
勝ちとつた涙を流してベスト4  
暗やみに線光火花輝いて  
夏の海きらきら光る魚かな  
夏予選祈る君と「金」の声  
猫の伸び両手を当ててこたつかな  
空見れば夏思い出すあのころを  
汗流し白球を追う球児たち  
帰り道輝く花火街てらす  
桜餅においにつられて朝起きる  
全員が汗水たらす運動会

湯口中学校	三年	斎藤 紗愛
湯口中学校	三年	齊藤 芯
湯口中学校	三年	佐藤 昊
湯口中学校	三年	新田 悠太
湯口中学校	三年	高野橋瑛奈
湯口中学校	三年	高野橋瑛奈
湯口中学校	三年	高橋 景花
湯口中学校	三年	高橋 楓眞
湯口中学校	三年	照井 士道
湯口中学校	三年	名須川七海
湯口中学校	三年	畠山 唯我
湯口中学校	三年	三田もなみ
湯口中学校	三年	南館 月那
湯口中学校	三年	芦澤 雫
湯口中学校	三年	伊藤 優成
湯口中学校	三年	小原 楓
湯口中学校	三年	小原 楓
湯口中学校	三年	小原 悠
湯口中学校	三年	小原 悠
湯口中学校	三年	菊池 伸悟
湯口中学校	三年	齊藤 悠斗
湯口中学校	三年	佐藤 諄
湯口中学校	三年	佐藤 諄





遊園地アトラクションは涼しかな  
 赤レンガおみやげ探す暑さかな  
 海のまち函館夜景うつくしき  
 秋風に乗り物ゆらり恐怖感  
 紅葉の気配感じる北海道  
 太陽の下で輝くすすきかな  
 秋風がすすきの間かけぬける  
 函館に無数の明かり涼やかに  
 涼しげにまつたり暮らす家畜たち  
 ひぐらしが寂しげに鳴く旅の終わり  
 見おろした夜景はまるで天の川  
 見上げればアイス片手に友見つめ  
 恋バナが盛り上がる夏10時半  
 朝練習涼しき函館ただ走る  
 朝食のイカ食べて知る北海道  
 爛々と煌く町に稲穂揺れ  
 未開の地涼しき風ふく北の島  
 旅終わる余韻にひたる熱帯夜  
 遊園地暑さ忘れるアトラクション  
 北の海イカづり船が輝けり  
 旅の宿外から聞こえる虫の声  
 猛暑日のソフトクリーム最高だ

湯本中学校	三年	小田嶋愛那
湯本中学校	三年	小田嶋愛那
湯本中学校	三年	鎌田 彩愛
湯本中学校	三年	鎌田 彩愛
湯本中学校	三年	鎌田 彩愛
湯本中学校	三年	鎌田 彩愛
湯本中学校	三年	小田嶋佑杜菜
湯本中学校	三年	小田嶋佑杜菜
湯本中学校	三年	小田嶋佑杜菜
湯本中学校	三年	佐々木琴羽
湯本中学校	三年	佐々木琴羽
湯本中学校	三年	佐々木琴羽
湯本中学校	三年	佐々木琴羽
湯本中学校	三年	杉村 美里
湯本中学校	三年	杉村 美里
湯本中学校	三年	高橋 快
湯本中学校	三年	高橋湊一郎
湯本中学校	三年	高橋湊一郎
湯本中学校	三年	千葉 久遠
湯本中学校	三年	千葉 久遠
湯本中学校	三年	富手 光
湯本中学校	三年	富手 光
湯本中学校	三年	富手 光
湯本中学校	三年	中島 未来
湯本中学校	三年	中島 未来
湯本中学校	三年	中島 未来
湯本中学校	三年	新田 颯哉
湯本中学校	三年	新田 颯哉
湯本中学校	三年	新田 颯哉



海の上漁船の光さざめいて  
 遊園地皆で食べたチヨコバナナ  
 街の夜は夏の日に勝つ光かな  
 間に合えとお土産片手に炎天下  
 夏だ海だと浮かれる俺めちやはずい  
 星月よ我の心をいやす時  
 夜風吹く寒さを忘れ光見る  
 空登りはやる鼓動に緑かな  
 港風吹かれて食べるは蜜の味  
 函館や蛸ただよう星月夜  
 夜来れば海に灯るやイカ獲り船  
 夕焼けの西日に映える五稜郭  
 アトラクションまだ暑いのに震える手  
 朝食はさすが函館いかそうめん  
 暗闇にかがやく夜景天の川  
 天高く青葉茂るや五稜郭  
 お土産と思い出話囲む夜  
 百万ドル地上の星々天の川  
 さわやかな風きり駆けるゴーカート  
 天高し志散る五稜郭  
 コースターまだまだ上がる熱気かな  
 赤レンガ海風あたりひと休み

湯本中学校	三年	伊藤 優
湯本中学校	三年	伊藤 優
湯本中学校	三年	金矢 瑛汰
湯本中学校	三年	金矢 瑛汰
湯本中学校	三年	金矢 瑛汰
湯本中学校	三年	川村 望夢
湯本中学校	三年	川村 望夢
湯本中学校	三年	菊池 星花
湯本中学校	三年	菊池 星花
湯本中学校	三年	小瀬川正岳
湯本中学校	三年	小瀬川正岳
湯本中学校	三年	小瀬川正岳
湯本中学校	三年	佐々木瑛太郎
湯本中学校	三年	佐々木瑛太郎
湯本中学校	三年	佐々木美羽
湯本中学校	三年	佐々木美羽
湯本中学校	三年	佐々木美羽
湯本中学校	三年	澤田 美里
湯本中学校	三年	澤田 美里
湯本中学校	三年	澤田 美里
湯本中学校	三年	菅原 大雅
湯本中学校	三年	菅原 大雅
湯本中学校	三年	菅原 大雅



かき氷すこしよくばりカラフルに  
 雨あがりあまがえるの背に虹うつる  
 おいしそう見上げる先にいわし雲  
 より大きなつららで競う子どもたち  
 夏休み宿題終わらずあせる日々  
 スイカ割り割っただんめんきれいだな  
 夏休み遊びたいけど宿題が  
 泳げないプールに行つて練習だ  
 すいか割り毎年恒例たねとぼし  
 夏の夜輝く星々虫が鳴く  
 夏休み気づいた時には始業式  
 受験生冬の勉強当たりまえ  
 そうめんがするするする流れてる  
 友達とプールにはいると最高だ  
 窓をみてほし柿黒くなつちやつた  
 セミににて夜まで元気な子供たち  
 夏休み宿題終わらず最終日  
 夏休みあつという間に終わつたね  
 桜舞い花びら舞う春の風  
 夕立や雷鳴響き涼風吹く  
 霧の朝森静かに秋深し  
 咲くもよし散るも美し桜かな

花卷中学校	三年	佐々木楓奈
花卷中学校	三年	伊藤 小夏
花卷中学校	三年	伊藤 小夏
花卷中学校	三年	伊藤 小夏
花卷中学校	三年	武藤 悠太
花卷中学校	三年	武藤 悠太
花卷中学校	三年	藤井まつり
花卷中学校	三年	藤井まつり
花卷中学校	三年	藤井まつり
花卷中学校	三年	梅津 大嗣
花卷中学校	三年	梅津 大嗣
花卷中学校	三年	梅津 大嗣
花卷中学校	三年	平賀 充稀
花卷中学校	三年	平賀 充稀
花卷中学校	三年	平賀 充稀
花卷中学校	三年	平賀 充稀
花卷中学校	三年	村井 宏徳
花卷中学校	三年	工藤 大遥
花卷中学校	三年	工藤 大遥
花卷中学校	三年	藤沼 龍平
花卷中学校	三年	藤沼 龍平
花卷中学校	三年	藤沼 龍平
花卷中学校	三年	藤沼 龍平
花卷中学校	三年	田中 蓮斗



風が吹く風鈴の音リンリンと  
 間違えてスイカの種を飲み込んだ  
 潮風の香をまとう肌小麦色  
 氷山がキャンパスごとく彩られ  
 夕立でうきわをつたう海の砂  
 炎天下勝つと信じて稽古する  
 出窓から見えるものは咲く花火  
 清水やどくどく流るる喉の奥  
 愛犬をよそ目に食べる栗ごはん  
 まちあわせ色とりどりの浴衣かな  
 春しづく儂きものは美しや  
 四年越し祭りにぎわう華やかに  
 日焼けしてマスクの形跡残る  
 風鈴の音色に誘われ夏が来る  
 楽しさは花火とともに舞い上がる  
 向日葵やぐんぐん伸びる温度計  
 カリカリと茶トラの子猫はつごはん  
 楽しみは通学路で踏む霜柱  
 夏休み宿題無しで遊びたい  
 かき氷ぼくらの夏の救世主  
 受験とはぼくらにとつて強敵だ  
 最後の夏夢の舞台でかけぬける

花巻中学校	三年	菊地凜之介
花巻中学校	三年	菊地凜之介
花巻中学校	三年	菊池 星空
花巻中学校	三年	菊池 星空
花巻中学校	三年	菊池 星空
花巻中学校	三年	川村 碧泉
花巻中学校	三年	川村 碧泉
花巻中学校	三年	川村 碧泉
花巻中学校	三年	東野 結衣
花巻中学校	三年	川村 香鈴
花巻中学校	三年	川村 香鈴
花巻中学校	三年	川村 香鈴
花巻中学校	三年	菊池 美桜
花巻中学校	三年	菊池 美桜
花巻中学校	三年	川村 結衣
花巻中学校	三年	川村 結衣
花巻中学校	三年	福岡真太郎
花巻中学校	三年	小野みかげ
花巻中学校	三年	小野みかげ
花巻中学校	三年	瀬川由莉菜
花巻中学校	三年	佐々木滉太
花巻中学校	三年	照井 心陽
花巻中学校	三年	佐藤 南希

野球場響き渡るよセミの声  
 夏の夜空に咲き散る花の色  
 桃色の花見て我を振り返る  
 行つてきます扉の先は銀世界  
 暑すぎて外出たしよんかんおわつたは  
 マンションは花火を見る時特等席  
 冬に食うアイスもこれまたかくべつだ  
 桜見て心もきれいに咲き誇る  
 夏だからプールに入ろう楽しいね  
 寂しいな桜咲く頃卒業だ  
 真つ白でキラキラ光る白い雪  
 目を開き扉に飛びこむ夕日かな  
 春風に吹かれ草花踊り出す  
 ホツカイ口私の冬の相棒だ  
 皆の声広がっている体育祭  
 温い風昼日遮る桜段幕  
 夏空に西からのぞく白の巨人  
 エアコンはぼくらの夏のヒーローだ  
 四月から新しい道スタートだ  
 プール後の女子の前髪土砂崩れ  
 木枯らしのふく廊下では目もあわず  
 ブランコに青い影見る一人帰す

花巻中学校	三年	佐藤 南希
花巻中学校	三年	熊谷 銀二
花巻中学校	三年	熊谷 銀二
花巻中学校	三年	熊谷 銀二
花巻中学校	三年	寺澤 奎斗
花巻中学校	三年	寺澤 奎斗
花巻中学校	三年	寺澤 奎斗
花巻中学校	三年	藤田 若奈
花巻中学校	三年	熊谷 宥亜
花巻中学校	三年	高田 菜未
花巻中学校	三年	高田 菜未
花巻中学校	三年	八重樫 凜美華
花巻中学校	三年	八重樫 凜美華
花巻中学校	三年	佐藤 実優
花巻中学校	三年	高橋 星花
花巻中学校	三年	瀬川 凜人
花巻中学校	三年	瀬川 凜人
花巻中学校	三年	井手陽菜乃
花巻中学校	三年	井手陽菜乃
花巻中学校	三年	井手陽菜乃
花巻中学校	三年	田澤 萌香
花巻中学校	三年	田澤 萌香



花火咲く心に響く思い出が  
 散る花火動きだす人ながめてる  
 夏祭りいつもよりちよつとおしゃれする  
 大寒の気温の低さにふとんへと  
 風鈴の音様々なグラデーション  
 うちわからあふれんばかりの子供達  
 光うけ輝きはなつスイカたち  
 堂々とひまわり咲いて踊り出す  
 青い空暑い夏とびつたりだ  
 ミンミンとセミが鳴いてる夏が来た  
 春の日にお花見いくよ家族とね  
 夏休み宿題なにも終わらない  
 冷やつこ食べて始めるダイエット  
 散ってしまうヒラヒラハラハラ花の雨  
 青嵐葉っぱがダンス踊ってる  
 涼しいなあ夏が恋しい秋の宵  
 変わらない夏の夜空を照らす月  
 天の川夜空をかける幻か  
 日が入りた葉からのぞくは桜晴  
 たんぼぼがそよ風にゆれ踊り出す  
 暗闇に花火打ち上げ笑顔咲く  
 夏の夜に空見上げれば夜の花

花巻中学校	三年	松本	林馨
花巻中学校	三年	伊藤	一花
花巻中学校	三年	佐藤	寧音
花巻中学校	三年	三浦	雪乃
花巻中学校	三年	菊池	翔太
花巻中学校	三年	菊池	翔太
花巻中学校	三年	菊池	翔太
花巻中学校	三年	白藤	杏
花巻中学校	三年	白藤	杏
花巻中学校	三年	田中	優梨
花巻中学校	三年	神山	知南
花巻中学校	三年	笹木	雄心
花巻中学校	三年	大久保青葉	
花巻中学校	三年	大久保青葉	
花巻中学校	三年	大久保青葉	
花巻中学校	三年	小山	陽向
花巻中学校	三年	三浦	太耀
花巻中学校	三年	三浦	太耀
花巻中学校	三年	照井	沙和
花巻中学校	三年	照井	沙和
花巻中学校	三年	吉田	愛梨



桜木に目を輝かしてはしゃぐ猫  
 おいしいなホクホク食べよう焼きいもを  
 帰り道空見上げると赤とんぼ  
 ついにきた受験を制す夏休み  
 起きたけどこたつぬくもりまた二度寝  
 夏の空打たれてしまったホームラン  
 暗やみに光り輝く打ち上げ花火  
 くるくると帰りの目印盆提灯  
 風鈴や風がひと吹き青い空  
 外歩く冬の始まり白い息  
 楽しみやプール開きの夏の日々  
 五月雨の夏は良きかな福来る  
 菜の花よ菜の花散るたび夏感づる  
 風が吹き風鈴の音涼を呼ぶ  
 せんぷうき右へ左へ働き者  
 風鈴の音が広がるきらきらと  
 外に出て真夏の太陽じりじりと  
 並木道木の葉も踊る青葉風  
 散歩道田畑を揺らす律の風  
 耳すますたよりを告げる桜の声  
 ドア開けて見渡すかぎりの銀世界  
 扇風機宇宙人はもういない

花巻中学校	三年	工藤	文香
花巻中学校	三年	菅原	結衣
花巻中学校	三年	菅原	結衣
花巻中学校	三年	小原	心葵
花巻中学校	三年	小原	心葵
花巻中学校	三年	中里	空
花巻中学校	三年	中里	空
花巻中学校	三年	小原	咲希
花巻中学校	三年	藤村	太陽
花巻中学校	三年	藤村	太陽
花巻中学校	三年	藤村	太陽
花巻中学校	三年	駿河	柊炉
花巻中学校	三年	駿河	柊炉
花巻中学校	三年	駿河	柊炉
花巻中学校	三年	大沼	美琴
花巻中学校	三年	大沼	美琴
花巻中学校	三年	阿部	温乃
花巻中学校	三年	晴山	莉衣
花巻中学校	三年	鈴木	湊和
花巻中学校	三年	鈴木	湊和
花巻中学校	三年	高橋	心菜
花巻中学校	三年	高橋	心菜
花巻中学校	三年	情野	尊心

夕焼けに輝く稲穂の故郷よ  
 友達と一緒に遊ぶ夏の朝  
 暗やみで花火が上がる美しい  
 夏祭り夜に外出うれしいな  
 あたたかい季節になるとさくらちる  
 くりを取りすいはんき入れくりごはん  
 通学路桜吹雪で見えぬ君  
 夏祭り一人で食べたりんごあめ  
 夏がきた花火バンバンきれいだな  
 カブトムシ激しくたたかうがんばれよ  
 ジリジリとわずかな命燃やすセミ  
 不快だなドアのとつてにあまがえる  
 母の日を毎回忘れる親不孝  
 ジューシーな梨をほおぼり胸さわぐ  
 夕方の眩しい海に無我夢中  
 空に咲くきれいな花は揚げ花火  
 雪が降り回り一面白の世界  
 ありがとうその一言で日本晴れ  
 夏始め五月の空気はずかしいな  
 三日月は夜空にのぼる花のよう  
 冬の雲それが通れば雪積もる  
 海に来てきれいな人に胸躍る

花巻中学校	三年	菊池 竜史
花巻中学校	三年	古館 優
花巻中学校	三年	山折 美優
花巻中学校	三年	菅原 怜児
花巻中学校	三年	川村 翼
花巻中学校	三年	小原 虎雅
花巻中学校	三年	豊澤 知輝
花巻中学校	三年	豊澤 知輝
花巻中学校	三年	鼻和 快土
花巻中学校	三年	鎌田 萩
花巻中学校	三年	佐々木海侑
花巻中学校	三年	田中 稜大
花巻中学校	三年	田中 稜大
花巻中学校	三年	田中 稜大
花巻中学校	三年	阿部さくら
花巻中学校	三年	阿部さくら
花巻中学校	三年	佐々木春風
花巻中学校	三年	佐々木春風
花巻中学校	三年	佐々木春風
花巻中学校	三年	小田 怜侍
花巻中学校	三年	小田 怜侍
花巻中学校	三年	小田 怜侍
花巻中学校	三年	高橋 輝人

海の青空の青さとまじりあう  
 クーラーがなければ暑く溶けてまう  
 白い影ボツンと鼻に初雪だ  
 秋の風ふいた先には絶景が  
 風に舞う桜の花びら春の舞  
 おでかけは海かな山かな楽しみだ  
 水の音染みる梅雨の声  
 すいか食べのどがイガイガレルギー  
 若葉の木朝日に照らされ青葉色  
 思い出と共に消えゆく線香花火  
 十五夜の闇夜を照らす望月か  
 秋風やお隣さん家はカレーかな  
 風吹けば桜舞い散る散歩道  
 さわやかな赤くて甘いさくらんぼ  
 雨が降り道に現るかたつむり  
 下校中空を飛ぶのはとんぼ達  
 蝉の声勉強中に鳴り響く  
 前歩く黄色いぼうしに桜散る  
 風吹いてひらりひらりともみじの葉  
 おとうとはアイス食べすぎまだ食うの  
 春がきた桜がさいて夜が明ける  
 草花に白露が宿る白い粒

花巻中学校	三年	高橋	輝人
花巻中学校	三年	高橋	輝人
花巻中学校	三年	上澤	咲千華
花巻中学校	三年	上澤	咲千華
花巻中学校	三年	久保田	悠月
花巻中学校	三年	道上	幸
花巻中学校	三年	西山	龍之介
花巻中学校	三年	二上	日向
花巻中学校	三年	佐藤	桃花
花巻中学校	三年	熊谷	湊太
花巻中学校	三年	熊谷	湊太
花巻中学校	三年	熊谷	湊太
花巻中学校	三年	安部	夢花
花巻中学校	三年	安部	夢花
花巻中学校	三年	安部	夢花
花巻中学校	三年	神山	里緒
花巻中学校	三年	梅瀬	優奈
花巻中学校	三年	梅瀬	優奈
花巻中学校	三年	小原	佑月
花巻中学校	三年	坂下	琥珀
花巻中学校	三年	坂下	琥珀
花巻中学校	三年	千葉	零愛
花巻中学校	三年	高橋	唯夢
花巻中学校	三年	長谷川	楓



令和五年度花巻市民芸術祭第十七回文芸大会

「川柳」

中学生の部

あべ 和香 選

宿題「空」

特選

見上げれば誰かとつながる青い空

湯口中学校 三年 神山 咲綺

秀逸

青空に家族の思い出記録する

西南中学校 二年 伊藤 真桜

佳作

満点の星空見上げ笑顔咲く

西南中学校 二年 照井 蒼大

空見ると自分の悩み消えていく

西南中学校 二年 佐藤 奏芽

天高く空まで届けこの願い

西南中学校 二年 伊藤 真桜

よい日の出気分晴ればれ青い空

西南中学校 二年 藤原 彩花

見上げれば空には無数の贈り物

西南中学校 二年 藤原 朱理

藤川 忠巳 選

宿題「歌」

特選

歌うたいみんなの笑顔あふれだす

秀逸

眠る子に優しい母の子守歌

佳作

目覚ましに早く起きてとセミの歌

声を出しみんなに届け熱い歌

猛暑日にずっと聞こえるせみの歌

友達と心かよわせ歌うたう

たくさんの希望届けるこの歌で

子守り歌きいてうたたね午後三時

参加作品 中学生の部

「空」

空の下ごろりとねころび夢の中

青い空前へ進めと青信号

空見ればグラデーションがきれいだな

空みればいやなことでも忘れちゃう

西南中学校 二年 照井 湊愛

西南中学校 二年 高橋 美桜

西南中学校 二年 根子 愛梨

西南中学校 二年 菊池 元慈

西南中学校 二年 照井 蒼大

西南中学校 二年 原 唯夏

西南中学校 二年 伊藤 真桜

湯口中学校 三年 松下 倖大

西南中学校 二年 根子 愛梨

西南中学校 二年 八重樫愛弓

西南中学校 二年 八重樫愛弓

西南中学校 二年 菊池 元慈







空見れば光り輝く満月だ  
 まんべんな空いつぱいの雲がある  
 見上げれば空には無数の贈り物  
 見上げると朝昼夜に色とりどり  
 夕焼けの空が広がる下校中  
 筆に色空色絵の具美しい  
 青空の木影の下で本を読む  
 夏るとき赤い空がきれいだな  
 梅雨始め空を見上げて傘さがし

「歌」

歌うたい心を一つに合唱だ  
 親戚と笑いの歌が鳴っている  
 鳴り響く音の自然セミの歌  
 歌うたえば僕の心の霧も晴れる  
 歌うたい自分の気持ち伝えたい  
 雨が降りかえる達が歌ってる  
 文化祭気持ちを込めて歌い出す  
 全校の歌声響く校舎内  
 セミの声たくさんひびいて大合唱

西南中学校 二年 佐藤 妃奈  
 西南中学校 二年 佐藤 妃奈  
 西南中学校 二年 藤原 朱理  
 西南中学校 二年 藤原 朱理  
 湯口中学校 三年 伊藤 優成  
 湯口中学校 三年 小原 楓  
 湯口中学校 三年 佐藤 諄  
 湯口中学校 三年 藤原 真栄  
 湯口中学校 三年 松下 倖大

西南中学校 二年 八重樫愛弓  
 西南中学校 二年 佐々木彩衣  
 西南中学校 二年 佐々木彩衣  
 西南中学校 二年 浅沼 天  
 西南中学校 二年 浅沼 天  
 西南中学校 二年 照井 依吹  
 西南中学校 二年 照井 依吹  
 西南中学校 二年 高橋 颯良  
 西南中学校 二年 高橋 颯良  
 西南中学校 二年 澤田 佳音



全員で声を合わせて合唱だ  
 夏の夜ゲコゲコと鳴るカエルの歌  
 学校に僕達の歌を響かせた  
 虫たちの四季折々の歌声だ  
 歌歌う自然と心も歌いだす  
 文化祭みんなで歌う合唱曲  
 文化祭心合わせて歌おうよ  
 歌うたうきれいな歌声ひびいてる

西南中学校	二年	伊藤	李緒
西南中学校	二年	大和	走礼
西南中学校	二年	中島	絢星
西南中学校	二年	藤原	朱理
西南中学校	二年	藤原	朱理
湯口中学校	三年	伊藤	優成
湯口中学校	三年	佐藤	諄
湯口中学校	三年	藤原	真栄

令和五年度花巻市民芸術祭第十七回文芸大会

「詩」 中学生の部

照井 良平 選  
牛崎 敏哉 選

奨励賞

おはようのプレゼント

大迫中学校 一年 藤田 凜花

おはよう

今日最初にプレゼントをあげたのは

お母さんとお父さんだ

そしたら

おはよう

おはよう

って今日最初のプレゼントをもらった

うれしい

一個プレゼントをあげたのに

二個もプレゼントもらっちゃった

学校でも

たくさんプレゼントをあげたら

たくさんプレゼントをもらった

おはようのプレゼントってすごい

みんなが良い気持ちになる

もつともつとあげたいな

もつともつともらいたいな

もつともつとひろげたいな

あつ

でも今からは

こんにははのプレゼントに変わる

見えないだけで

西南中学校 二年 澤田 佳音

見えないだけで

相手の声からは感情が

読み取れる

初めての人も

顔なじみの人も

声には感性が生きているのが

読み取れる

見えないだけで

胸の奥で

思っていることは

色が住んでいる

喜びのピンク怒りの赤

悲しみの青楽しいの黄色

人によつて思っていることの

色は違う

教室の中には

どんな色が混ざっているのだろうか

自然の不思議な力

大迫中学校 一年 遠山 莉央

霧が立ち込まる 雨上がりの日

光が霧や道路に反射しておどっている

たくさんの木があつて 自然いつぱいの道

木の葉に水滴がたまりポタポタ落ちてくる

傘に水滴が当たつて音楽をかなでる

長い長い道をひたすら歩く

森から出るとガードレールがあり

水滴がガードレールに落ちると光に当たり

七色に輝きだす でも水滴はただの水

自然は不思議な力をもっている

たくさんの力をもっている

自然と私たちは生きている

かえる

石鳥谷中学校 一年 高橋 莉愛

みどり かえる

僕は今日もはねる

トランポリンのようにはねるかえる

水のようにはねるかえる

いろいろなとび方をするかえるがいる

僕も僕らしいとび方をする

今日も僕は僕だ

参加作品 中学生の部

ビル

大迫中学校 一年 阿部 祥吾

ビルはいつも光っている

朝は

昇ってくる朝日に

照らされて

昼は

ジリジリした太陽に

照らされて

夜は

中の部屋の明かりで

まわりの夜景に照らされて

航空障害灯を点滅させて

光り輝いている

明るく光る松明のように

日本中を照らし出している

吹奏楽の夏の日常

大迫中学校 一年 石ヶ森 佑葵

クラリネット 吹いているととても幸せな気分になる

みんなの音が重なり ひびき合っているのが好きだからだ

窓からさわやかな風が私達を包みこむように入ってきて

ざわざわと木の葉がゆれ 私達の音を楽しそうに聞いているように思えるのだ

また窓から見える暖かい景色を見ていると心がぼかぼかと

あたたかくなる

私はこの時間が好きなのだ

そしてこの気持ちが好きなのだ

ユーチューブ

大迫中学校 一年 石橋 明弓

わたしは いつもユーチューブをたくさん見ている

好きなチャンネルを日がわりで見ている

わたしは好きなチャンネルを見ていると



自分もやりたくなるようなことが たくさんやってい  
でも ユーチューブばかり見てもダメだから  
たまにはユーチューブやゲームは禁止にして勉強を  
たくさんやろうと思う

### 刺激

大迫中学校 一年 伊藤 悠哉

人は今も昔も刺激を求めている

こしように黒いダイヤといい

同じ重さの金と交かんしたり

ネットに人を不快にすることを書き込んで

反応を見て楽しんだりする

人は時に刺激を求めて犯罪をもおかす

人は刺激にうえている

こんなことだったら  
人はもう少し  
地味には生きられないのだろうか…

### 三年間通る道

大迫中学校 一年 小野 閑馬

少し寒い朝 自転車で登校する

毎日毎日見なれた景色を

今日も明日も進んで行く

疲れた帰りも 自転車で下校する

鳥は飛行機のように飛んでいる

人は少ない

でも親友の友達がいる

今日も明日も安全に進んで行く

### 野生

大迫中学校 一年 齊藤 優心

海でサメがウツボを食べた時サメはマツコウクジラに  
食われる

ジャングルでナマケモノがオランウータンにやられた  
時ナマケモノはオランウータンにやられる

山でシカがクマに勝った時シカはクマを食べるかもし  
れない

さばくでハイエナがシマウマを食うかもしれない

犬がもし地雷の場所に入った時 犬が地雷をかんちす  
るかもしれない

人間がクマと手で戦いあつた時 人間が勝つかもしれ  
ない

野生はこうしてまわっている

### 海と宝石

大迫中学校 一年 佐々木 珠莉

僕たち似ているね

どこが似ているの

きらきらしているところとか

みんなに人気なところとか

でも違うところもあるよ

海はまき大きいし広いでしょ

私は小さい

嫌なこともあるよね

僕は ごみを投げられることが嫌かな

私は ホコリをかぶるのが嫌かな

まあそれでも 今みんなに大切にされているからいいん

じゃない

そうだね そろそろ日も暮れてきたから私は帰るね

うん また明日

忘却へ：

大迫中学校 一年 佐々木春輔

行きたい

忘却の先へ

忘却のかなたへと

時には

蹴落とされ

時には

おびやかされ

時には

誹謗中傷を受けた

行きたい

忘却の先へ

忘却のかなたへと

ただ

覚えていてほしい

あばただけには

忘れてほしくない

だから・・・

忘れないで

雨の季節

大迫中学校 一年 佐々木 直

空が静かに泣く春

誰にも言えなくて

悩んでいるの？

空が泣き止まない初夏

何をそんなに

悲しんでいるの？

空が夕焼けに泣く秋

夕日が

目に染みたの？

空の涙が凍る冬

一緒に

遊びたいの？

紙

大迫中学校 一年 佐々木 遥斗

ぼくは だれにも好きになつてくれない

ただぼくに書いて 捨てるだけ

2つの刃がぼくをおそつてくる  
痛い 助けてほしい だけど泣けない

ぼくは丸くされ 箱に入れられるのがいやだ暗くて  
怖い

ぼくは悲しいだれにもやさしくしてくれない  
ただただ悲しいだけ  
夜はだれも気にしてくれない

だけどやさしくしてくれる人もいる  
たくさんのぼくをあわせてみんなが人気者にして  
くれる とてもうれしい 天国だ

でもそれはかぎられたぼくだけ  
ほとんどのぼくは地獄に落とされる  
地獄は世界一きらいな場所だ

どうかこのぼくを助けてほしい  
ぼくをぼくらを大切に使つてくれる人はいるので  
あろうか

何度でも言おう  
どうかどうかぼくをこのぼくらを  
助けてほしい

廊下

大迫中学校 一年 佐々木 真世

天井を見上げると

穴があいている

(何か出てこないかなあ)

とか

(あの穴 何個あるんだろう)

とか

そういうてきとうなことを考えて

現実逃避をして

今日も上を向いて歩く

床を見ながら歩くと

変な模様がある

(何かに見えてこないかなあ)

とか

(ずっと見てると変なかんじだなあ)

とか

そういう変なことを考えて

現実逃避をして

今日も下を向いて歩く

また会う日まで

大迫中学校 一年 佐藤 蒼眞

寒い冬があげ 季節の移り変わり

氷が水になり 獣が起きる

春になれば 氷がとける

春になれば 空が明るくなる

春になれば あたたかい

春になれば 白い妖精が冬に また会おう

そう言つて姿を消す

やさしい日にてらされて

あの子が土から顔をだす

背をのばす

やがて花がさき

その花は春の証明になる

やがて時はたち

周りが白いえのぐでぬられていく

そしてまた 妖精があらわれる

「やあ また会えたね」

大迫つてなんだろう

大迫中学校 一年 高橋 幸佑

大迫つてなんだろう

自然が豊かで美しい町

春には桜 夏には川

秋にはぶどう 冬には早池峰山

四季折々の景色が見える

大迫つて素晴らしい

大迫つてなんだろう

伝統受けつぐ歴史がある町

神樂しんがくの元気のある声

学校から響いてくる

世界にほこれる伝統がある

大迫つて素晴らしい

大迫つてなんだろう

笑顔を絶えない素敵な町

最高のみんなの笑顔が

この町を活気づけてくれる

大迫つて素晴らしい

大迫つてなんだろう

世界にほこれる 僕たちのふるさと

窓

大迫中学校 一年 藤原 友梨佳

ぼくたちは 毎日たくさんの人の暮らしを  
守っている

家や学校 いろいろな場所でみんなを  
守っている

ぼくたちは 雨 風 雪にうたれても  
へっちゃら

みんなを守るのが ぼくの役目

ぼくたちは とても強いけれど

いつか割れてしまうことがある

割れてしまったらその破片が

みんなを傷つけてしまう

だから大切に使ってほしい

七色のにじ

西南中学校 二年 高橋 颯良

雨上がり

晴れた青い空の上

七色のにじの橋がかかり

青い空が一気に華やかに

七色のにじの下には  
何があるのだろうか  
一度行つて見てみたい

駅伝

西南中学校 二年 照井 日菜

一つのタスキでつないでく  
くるしくても あきらめそうになつても  
チーム 自分 次の人のため  
どんなにつかれても がんばつて走る  
自分の心と向き合つて走る  
心身ともに強くなれた気がした

新学期

西南中学校 二年 堀岡 咲紀

風が吹いて桜が散る  
友達と同じクラスになれたかな

担任の先生はだれかな  
なんて考えながら  
私は桜の雨をくぐる

夏の味わい

西南中学校 二年 安藤 梨来

夏の昼  
太陽にてらされ  
ジリジリと  
夏の夜  
虫の音が  
ひびきたる  
夏でしかの味わいだ

自転車をはたすらくぐ

西南中学校 二年 高橋 大翔

夏休み

自転車で中学校まで

こいで こいで こぎまくる

部活が終わり

また また また

こいで こいで こぎまくる

体力 ついて よかったね

ぼくのいろ

西南中学校 二年 根子 愛梨

ぼくだつて

虹の中に入つてたら

有名な色だつたのに

その中に入つても

だれの色も汚さないから

びつたりじゃないか

でも

すつきり晴れた空には

めだたないけど

僕の色だつて入つてる

雲の色

雲の色だけじゃない

だから

胸張つていえる

ぼくはこの色だつて

そう

「しろ」いろ

夏の音

西南中学校 二年 佐々木 彩衣

夏には音が山ほどある

セミの音

虫の音

それらの音は定番だ

だが夏限定の音がある

親せきとふれ合い笑いあう

笑いの音



とんでゆけ

西南中学校 二年 藤原 彩花

ふわふわと

風にふかれてとんでゆけ

どこまでも

どこまでも

とんでゆけ

いろいろなわたげを

自慢して

広い校庭

西南中学校 二年 原 唯夏

学校の校庭は

沢山のひと

時間を共にしていく

たとえ生徒が卒業しても

たとえ先生が異動になっても

たとえ校舎が新校舎になつたとしても

ずっと変わらないのが

「校庭」

休み時間や授業中

部活中や体育祭とかの行事の中で

みんなと沢山の思い出をつくっているのが

「校庭」

ほら

今も新しい思い出が

また一つ

つくられようとしている

バレーボール部のルーティン

西南中学校 二年 斎藤 奏

円になり

手をつないで

キャプテンの

「いくぞ」から始まり

たくさんまわり  
「おー」で終わる

それが私たちの  
ルーティンだ

鳴き声

西南中学校 二年 川邊 颯人

夜中に自宅で

勉強中

カエルやおろぎの

鳴き声が

かすかにきこえ

こちよ

桜

西南中学校 二年 阿部 愛佳

桜が風にゆれている

風が花びらを乗せ

ゆつくりと

ゆつくりと散っていく

まだ見ていたいよ

葉が緑色に染まっていく

暑い夏

西南中学校 二年 照井 依吹

とても暑く

涼む日々

一日一日が

とても暑い

海やプール

アイスやかき氷

たくさん

涼む年

春の知らせ

西南中学校 二年 八重樫 愛弓

窓を空けると

一枚の花びらと

澄んだ空と

あの匂い

夕立

西南中学校 二年 小原 暁

ザンザンと

夕立は気まぐれに

夕暮れ時の黄金色の空がくもる

儂い命だが きつと明日もかってくる

心も洗い流してくれる

ザンザンと

詩とは

西南中学校 二年 八重樫 風雅

詩とは

何を書いていいか

分からない

虫の歌

西南中学校 二年 菊池 元慈

夏の夕方に

いつも虫たちの歌声が

きこえてくる

スズムシやコウロギなど

夏の虫たちのきれいな歌声で

毎日が楽しくなる

夏異状

西南中学校 二年 藤原 颯

夏の昼

異状なほどの気温の中

外に出る気力がなくなり

冷えてる部屋に逃げては

そこで一日を過ごす日々が続く

春

西南中学校 二年 伊藤 真桜

雪の下から芽を出して

小さな花は成長する

入学式で胸をはせ

小さな子供は成長する

春はいろんな

成長の時期

季節のいいところ

西南中学校 二年 照井 湊愛

春といえば桜

夏といえば花火

秋といえば紅葉

冬といえば雪

これが私が思う

季節のいいところ

空の顔

西南中学校 二年 高橋 美桜

空は さまざまな顔を もっている

雨の時の暗い顔 晴れの時の明るい顔

今日は どんなお顔を 見せてくれるかな

私は 晴れた青空の お顔がとても好き

夕暮れの顔 夜の星が輝く顔

私は 三日月光る お顔がとても好き

明日は どんなお顔を 見れるかな

バスケ

西南中学校 二年 照井 道頌

晴天の中

バスケをして

黒くなる仲間たち

花火

西南中学校 二年 佐藤 妃奈

祭りに行き

花火を見る

花火の色が

町を照らし

きれいな色の

町なみだ

四季

西南中学校 二年 藤原 朱理

桜が咲き始める春

暑くなりまぶしい太陽が出る夏

涼しくなり虫が鳴き始める秋

雪が降って極寒な冬

四季があるのは幻想的だ

すべて景色が違う

その季節でしか見れないものがある

虫、花、食べ物、天気など

そんな四季があるのが楽しいな

夏の音

西南中学校 二年 大和 走礼

カエルの「ゲゴゲゴ」という音  
セミの「ミンミンミン」という音  
風鈴の「チリンチリン」という音  
どれもすべて夏の音

4時

西南中学校 二年 佐藤 奏芽

朝の4時  
まだ明るくなつたばかりの外を見る  
鳥や虫の音をきく  
深呼吸して朝はじまる  
夕方の4時  
学校から帰ってくる  
おかしを食べて一息つく  
ギター練習もする

自分が一番おちつく時間  
自分が一番好きな時間

夏休み

西南中学校 二年 小原 蓮夢

夏休み海の中で  
プカプカ浮かぶ  
海の上

カナリア

西南中学校 二年 浅沼 天

カナリアが鳴き出す四月の末 一匹のカナリアが  
こちらをじつと見ていた  
そして何秒かたつとそのカナリアはどこかへ飛ん  
でいつてしまった  
カラスなどは 二、三羽などでむれているのにな  
ぜだろう

そのカナリアはまるで 自分自身を表しているようだ

### 食物連鎖

石鳥谷中学校 一年 佐藤 遥斗

食べる食べる食べる食べる食べる食べる

そんな世界で私は生きている

私たちが食べているものはたくさんの命だ

だから私は食べる

たくさんの命に感謝して

くも

石鳥谷中学校 一年 中村 悠馬

みんなは 私は上だよ

みんなを いつまでも見守ってるよ

みんなに 太陽を届けたり

みんなが 楽しんでもらうため

みんな 私は夜でもいるよ

みんなを 明かりから守るためだよ

みんなに 快適なねむりを届けたり

みんなが 明日元気にいるため

しおり

石鳥谷中学校 一年 杉山 紗菜

読書が好きな

あなたのあいぼう

毎日 数歩 数歩

あなたといつしよに

いろんな世界を

みていくよ

にじの贈り物

石鳥谷中学校 一年 佐々木 渉銘

早朝にじがでていた  
何年も見ていかなかった  
とつても

とつても

きれいなにじだった  
僕は走った

全力で走った

にじのふもとに

着いた

そこには

そこには

にじの贈り物

のような

青天が あつた

音

石鳥谷中学校 一年 勝沼 颯人

トントン ダンダン

ピーピー チリリリリ

耳をすますとたくさんの音がする

耳をすますとたくさんの「生命」を感じる

耳をすますと未来が広がる

ボクたちワタシたちは

「音」とともに生きている

人生の道

石鳥谷中学校 一年 阿部 瑛己

振り返ると過去が見える

だが戻ることにはできない

今もいずれは過去になる

後ろには夢がない

夢をつくる今を生きるんだ

いつかは夢という名のゴールにたどりつける

人間

石鳥谷中学校 一年 古内 樹



人間は一人一人ちがう個性をもつ

この世の中には

自分と同じ顔

自分と同じ性格をもつものは

自分たつた一人しかない

だから

この世の中の一人一人は

みな 絶滅危惧種なのだ

### 朝の自転車

石鳥谷中学校 一年 筑後 琴子

ゆるやかな坂にさしかかる

足をペダルから離す

すべり台であそぶ 子どもみたいに

坂がおわって すべり台をおり

息を吸いこむ

まつさきに鼻にとびこんだのは

稲を育てている 土において

春まで待っている

石鳥谷中学校 一年 佐藤 奏太

桜の木は春まで待っている

春に咲いたら

夏 秋 冬と待っている

春になると

人が喜んでくれる

新しい生活が始まる

花びらがひらひらと

落ちていく

どんなにつらくても

桜の木は待っている

人を喜ばせるために

待っている

海と空と自分

石鳥谷中学校 一年 八重樫 杏

海の泳いでいるさかな  
まるで輝やく石のように  
うろこを輝やかせ  
日を反射させながら泳ぐ  
それは舞っているようだ

空を飛ぶ鳥

まるで紙飛行機みたいに  
ゆうがに飛ぶ  
羽が風にあたり  
羽をなびかせながら飛ぶ  
遠くのはてまでとんでいく

自分は空をとべないし泳ぐこともできない  
でもいつか  
空をとんで  
どこまでも どこまでも

きれいなつばさ

石鳥谷中学校 一年 堀口 璃梨

わたしはちよう  
ひらひらとまい上がる  
花びらみたいにきれいなつばさ

わたしはちよう

きらきらとひかつてる

お星さまみたいにきれいなつばさ

明日はどんなつばさだと

言ってくれるのかな

自然

石鳥谷中学校 一年 佐々木 煌雅

自然はなんでしょう  
自然は人間がつくりだした世界が自然です  
ちがいます

動物 植物が自由にくらせるのが自然なのです

四つ葉のクローバーが待っている日

石鳥谷中学校 一年 畠山 ひよ里

私達は待っている

クローバーの中で

1万分の1の確率で生えている私達

カンカン照りの日も

雨がザアザア降っている日も

風がビュウビュウ吹いている日も

私達は待っている

10万分の1の確率であなたが見つけてくれる日を

日常

石鳥谷中学校 一年 畠山 ひよ里

ベッドから起き上がり

制服に着がえ

朝ご飯を食べ

学校に行き

授業を受け

友達と話して 遊んで

家に帰る

部活の夜練に行き

宿題をして

夜ご飯を食べて

お風呂に入り

ベッドで寝る

日常が変わらないことが

幸せなのかもしれない

なりたいな

石鳥谷中学校 一年 村本 奈々

あのきれいなお日様に

このきれいなお花に

なつてみたいな

サンサン笑顔なお日様に

あざやかオレンジのマリーゴールドに

なつてみたいな

私はお日様みたいになれない

私はオレンジのマリーゴールドになれない

なりたくないな

あの

きれいなお日様に

あの

あざやかなオレンジのマリーゴールドに  
なりたくないな

ゲゴゲゴゲロゲロ

石鳥谷中学校 一年 佐藤 大和

蛙井 大和

俺は鳴くゲゴゲコ

今日はカンカンでりだ

ひからびちまう

こういうときは池に

ボチャンだ

俺は鳴くゲロゲロ

今日はジメジメだ

いきいきしてる

こういうときはもつともつと

歌つちまえ

うみからこんにちは

石鳥谷中学校 一年 高橋 我玖

たかはし たいよう

うみから こんにちは

ぼくは ひかりをつけるため

みんなを てらすため

まいにちうみから　こんにちは  
でも　ひかりがきえると  
みんなと　さようなら  
かなしい　けどね  
ひかりが　でると  
こんにちは  
いちにちが　はじまる

ぼくはナマケモノ

石鳥谷中学校　一年　大原　愛生

ナマケモノ愛生

その名の通りぼくはナマケモノ  
ぼくの一日は木にぶらさがってばかり  
いつもながいつめで  
ぶらさがりながら　生活してる  
ぶらさがった時は　さかさまに見えて  
とてもおもしろいんだ

その名の通りぼくはナマケモノ

ぼくの一日は木の上で寝てばかり  
いつも暖かい日をあびて  
のんびりしながら生活してる  
木は友達なんだ  
僕にとつて

きそいあう

石鳥谷中学校　一年　似内　理恵

ふきのとう　りえ

雪の下まだ春がこないかな  
と  
まっついていられない  
ふきのとう  
みんなできそいあう  
俺が先にでてやる  
雪の下まだ春がこないかな  
と  
まちきれない

ふきのとう

上の方から光が：

「やつぱり俺が一番だな」

と いつまでもきそつている

やんちやな男の子達

ぼくの人生

石鳥谷中学校 一年 早野 篤人

スズメバチ篤人

ぼくはスズメバチ

花のみつをすつて

巣をつくつて

子どもを残すよ

でも

人間に攻撃されたり

仲間が危ない時は

「守るよー死ぬ気で」

でも人間には

こわがれたくはないよ

ぼくは今日も

必死で生きている

気まぐれな雲

石鳥谷中学校 一年 菊池 雪菜

菊池 雲

雲は気まぐれです

雨が降る前にもくもくとなる

雨が降りはじめると雲は灰色になる

私は気まぐれです

まるで人間のように

だれかがキャンプをしていても

だれかが本を読んでも

私の心が変われば天気もかわります

雲をあつかうのはたいへんです

私は気まぐれです

ゆつたりと

石鳥谷中学校 一年 佐々木 瑠和

ささき 白

いつも 高いところにいる

上からながめている

いつもと変わらない景色

いつも流れている ゆつくりと

下にかげができている

形がいつもちがう

今日はあめがない

しずくがおちてく

あめだ

わたしの一年

石鳥谷中学校 一年 小森田 早紀

有栖 三兎

春が来たよ

寒い寒い冬が明け

あたたかい春 やつてきた

みんなと原っぱ走るんだ

暑いなあ

そろそろ夏が来るのかなあ

休もうか

涼しい木かげですやすやと

葉っぱが赤く染まってきたよ

月がまんまるきれいだな

そろそろみんなとお別れだなあ

さみしいけれど また春に

雪がちらちらまってるよ

わたしの色と同じ色

早く春がこないかな

あたたかい日が待ちどおしい

春のせせらぎ

石鳥谷中学校 一年 村本 奈々

小川 菜々子

春うらら

風がそそぐ

菜の花

小川の鳴き声

耳によせ

小鳥たちが

舞い上がる

夏休みのプール

石鳥谷中学校 一年 佐藤 愛

夏休み車で 友達と行ったプール

友達とあそんだプール

学校のプールと友達と行ったプールどちらも

楽しいプール

石鳥谷祭りのたいこ練習

石鳥谷中学校 一年 小笠原 心羽

石鳥谷祭りのたいこ練習

毎日頑張る

本番の日が

まちどおしい

ドライブ

石鳥谷中学校 一年 菅原 詩音

おとうさんとお母さんとぼくといきました

はなまきともりおかでドライブをしました

ふだんないおもちゃがありました

めずらしいものがありました

なつやすみ

石鳥谷中学校 一年 永山 蒼竜



なつやすみ

くるまであきたにいきました

どうぶつえんにいきました

すいぞくかんにいきました

### 修学旅行

石鳥谷中学校 三年 坂本 海斗

友達といったテーマパークでアトラクションに  
のつてとても楽しかった

ホテルで友達と部屋でユーチューブを見て一人  
じゃなくて友達と見れてとてもうれしかったです